

大学院生 卒業エッセイ

二刀流

第 11 期大学院生 竹内 亮介
(第 9 期 OB)

本年度を代表する出来事の 1 つに、北海道日本ハムファイターズに所属する大谷翔平選手がメジャーリーグのロサンゼルス・エンゼルスへ移籍したということが、挙げられるかもしれません。皆様もご存知のとおり、大谷選手の代名詞といえ、投手と野手の二刀流です。投手か野手の片方でさえ優れた成績を収めることが非常に難しいプロ野球界にあって、大谷選手は、投手と野手の二刀流を体現し続け、「10 勝・100 安打・20 本塁打」、「投手部門と指名打者部門のベストナイン W 受賞」、さらには「1 番投手として出場した試合における初球先頭打者本塁打」など、前人未踏の大記録を打ち立ててきました。このように華々しい功績の裏に隠された日々の努力を想像すると、大谷選手に対しては、尊敬の念を抱くより他はありません。来春からは屈強なメジャーリーガーを相手に、一体どのように、投手と野手の二刀流を見せてくれるのでしょうか。今からワクワクが止まりません。

そんな大谷選手のメジャーリーグ挑戦と時期を同じくして、私は、東洋大学経営学部マーケティング学科に奉職させていただくことになりました。大変、有難いことです。小野ゼミ大学院へ進学した 2013 年から今日に至るまでの 5 年間では、いわば見習いとして、教育と研究の二刀流を経験させていただきましたが、来春からは念願叶って、一応はプロとして、教育と研究の二刀流に挑戦することができる機会をいただいたことになります。

上述した投手と野手と同様に、教育か研究の片方でさえ大きな成果を挙げることが非常に難しいということは、この 5 年間の大学院生活を通じて、幾度となく痛感してきました。実際に、現時点ですでに、一方においてはゼミの指導や講義の準備に、他方においては論文の執筆にアワアワ



投手と野手の二刀流を体現する大谷翔平選手

している自分の姿が、はっきりと目に浮かびます。しかしながら、4 歳も年下でありながら高い志を持って、投手と野手の二刀流でメジャーリーグに挑戦する大谷選手のことを思えば、私自身も、シャキッとせねばなりません。来春から教育という刀と研究という刀の双方を少しでも自由自在に操ることができるよう、1 日 1 日を情熱的かつ計画的に過ごしてまいります。